

双葉町復興町民委員会 復興産業等拠点部会
第2回新産業創出分科会 報告書

- 日時 平成27年10月19日(月)13時00分から16時00分
- 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室
- 参加者 別紙座席表のとおり
- テーマ
 - ① 再生可能エネルギーと農業との関係
(再生可能エネルギーの活用方針)
 - ② 農業、再エネ、雇用の組み合わせイメージ
(農地の活用方針)
 - ③ 事業の運営イメージ
(地域のかかわり、働く場の創出)

■議事概要

◇検討テーマ①：再生可能エネルギーと農業との関係

【主な意見】

《メガソーラー事業》

- メガソーラーは当初、土地の有効活用としての案であったが、40ha規模のメガソーラーを本当にできるのか危惧している。
- 両竹地区の一部でメガソーラーの話をしている。
- 売電だけではリスクが大きいのではないかという心配がある。
- コストがかからない規模でどのようなものなら可能であるか示してほしい。
- メガソーラーで発電した電気は地産地消がよい。
- 電気を貯めるための蓄電池を設置するとよい。
- 視察に行った際、自分たちで電力会社を立ち上げないと聞いた。両竹地区では難しいと思う。

《農業》

- オランダ型のハウス栽培がいいのではないか。
→ [白垣氏より補足]
 - ・現在の大規模な高軒型で環境制御型の施設園芸は基本的にオランダ型が主流になっている。
 - ・トマトであれば1haあたり1億円規模、雇用は16人程度が目安となる。
 - ・他地区の園芸施設で数年間研修をしてから事業を開始したほうがよい。

- 太陽光パネルで発電した電気は施設園芸で使い、余った分を売電するのがよい。
 - [白垣氏より補足]
 - ・屋根ではなくハウスの脇に太陽光パネルを設置する事例がある。
- 単なるメガソーラーの売電用の電気だけではなく、農業を活かすための電気としての利用がよい。
- 稲作を開始する場合の水利施設の復旧状況を確認したい。
 - [産業建設課より補足]
 - ・請戸川上流の大柿ダムからの農業水利施設は、平成 31 年度以降から供用予定。
 - ・前田川の水の使用は課題が多いため、井戸水を使うことになると考えている。
- 農地は荒らしておくより、何か作付してほしい。
- 古代米を使った田んぼアートや香りのある米を栽培して、町おこしにつなげたらどうか。

◇検討テーマ②：農業、再エネ、雇用の組み合わせイメージ

【主な意見】

《復興組合》

- 復興組合は必要であるが、専門家が先導して町民を引っばってほしい。
 - [産業建設課より補足]
 - ・双葉町の復興組合は農地管理をイメージしている。実際の作付等に関する内容は、除染後を目途に検討する予定。
 - ・まずは、作付の実証から始めることになる。

《養殖施設》

- ダチョウの養殖であれば、震災前に事業をしている方がいたので、技術や人材もある。
- オストリッチファームとして立ち寄れる場ができる。
- 観賞魚を養殖するのであれば、水族館を作ることによって観光や雇用の面で期待ができる。
- 食べられるものをあえて生産することで、線量のモニタリングができる。実証の場として国に呼びかけて研究施設などを誘致してはどうか。

《カフェ・レストラン》

- 観光名所や一時立ち寄り施設になるのでよいと思う。
- 他の産業と組み合わせていった方がよい。
→ [松本先生より補足]
 - ・第2回勉強会で復興祈念公園の来訪者向けのカフェなどが設置できないかというアイデアがあった。
- 復興祈念公園と同じように、再エネ・農業ゾーン内などへも設置するように進めた方がよい。

◇検討テーマ③：事業の運営イメージ

【主な意見】

《雇用》

- きちんと利益があり、かつ復興という話でないと魅力があるとはいえない。
- やはり人を集めるためには大手企業に参入してもらった方が良いのではないか。小さな事業では継続性も欠けるのでは。
- プランニングを進めて、早く有効活用をしてほしい。
- 戻って働きたくなる魅力が必要。
- 施設を作るための資金はどのようにすればよいか。
→ [事務局より補足]
 - ・再エネ関係、農業関係でもそれぞれ助成制度や補助制度がある。
 - ・地元の思い、やりたいという声があれば支援はある。

◇その他

【主な意見】

- 両竹・浜野地区だけではなく、復興産業拠点では企業誘致を優先させている。そちらも早く進めてほしい。地権者の同意がなければ話が進まないなので、同時並行してほしい。

■今回の部会のまとめ

○分科会員の意見を受けて、ファシリテーターの松本真由美氏が全体のまとめを行い、次のとおり説明した。

《メガソーラー》

- はっきり規模が確定していない点があるが、当初予定していた規模よりも小さくなる可能性がある。
- 分科会として、このぐらいの規模であれば実現の可能性はあるという案を事務局側から提示してほしい。
- 太陽光発電の電力を植物工場に使用する。それに蓄電池を併設して夜間の安定した電力を供給する案があった。
- 本来は電力事業者として立ち上げないといけないが、両竹地区においては難しい。
- プロフェッショナルな事業者に参加してほしい。

《農業》

- オランダ型の大規模な太陽光利用型の植物工場がよい。
- 規模は小さなものから始めるとよい。
- トルコギキョウ、バラ、将来的にはトマトなどを栽培する。
- 復興組合は必要。
- 実践者は農業生産法人になる。
- 古代米による田んぼアートができるのではないかと新しい案が出た。
- 水利に関しては課題もありそうなので、次回分科会で県等に確認した内容をお示ししたい。

《養殖》

- チャレンジしてもよいのではないかとという声もあったので、再度勉強会で検討してみたい。
- ダチョウなどは全国への発信、PRにつながる要素もある。
- 観光に寄与できる水族館というアイデアもあった。
- 販路の確保は難しいが、食用の養殖をすることで放射線をモニタリング、実証の場として国に呼びかけてはどうか。

《カフェ・レストラン》

- 前向きに検討してもよい。

《雇用》

- 厳しいという声があったが、メガソーラー、バイオマスの熱供給でどれだけ雇用が創出できるかという指摘があった。

《復興産業拠点との関係》

- 本分科会と復興産業等拠点部会との位置づけについて改めて確認した。

次の分科会では、さらに話を深めていきたい。

分科会の様子



双葉町復興町民委員会 復興産業等拠点部会

第2回 新産業創出分科会 座席表

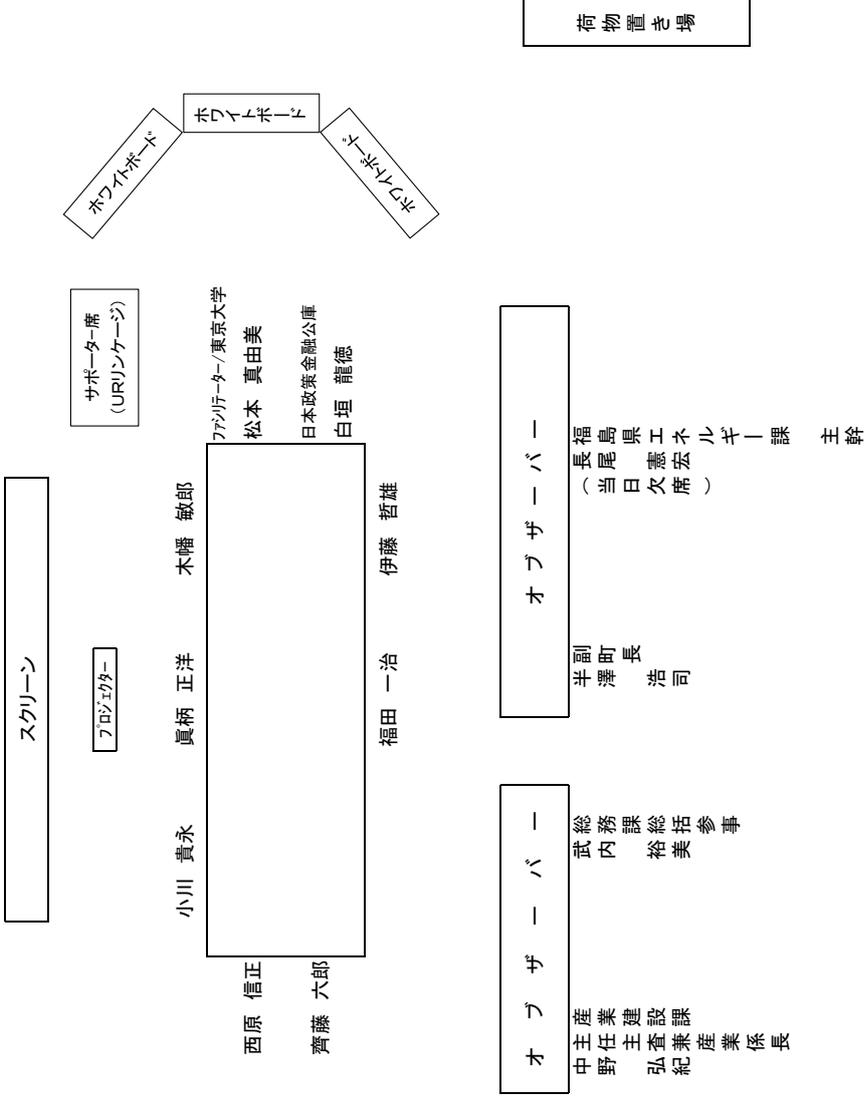
1 日時 平成27年10月19日(月)13:00~16:00

(敬称略)

2 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室

事務局 (復興推進課)
平岩 邦弘
網蔵 孝紀
細澤 界
橋本 靖治
松本 奈々
米山 治介
鈴木 薫
事務局

(財)電源地域振興センター



受付

報道関係者 傍聴席

事務局 (URリンクエージ・野村総合研究所)